

庄原市酪農連絡協議会

十一月一日 庄原市役所



堀井議長に要請書を手渡す向田会長(中)と才木副会長(左)

庄原市へ陳情要請  
市長・議長を表敬訪問



木山市長(右)に要請書を手渡す向田会長

庄原市酪農連絡協議会(会長 向田康浩)は、庄原市長と市議会議長を表敬訪問し、陳情要請を行った。これには、向田康浩会長をはじめ、才木啓久副会長、広酪から藏崎哲治課長補佐が同行した。

向田会長からは、木山耕三市長と堀井秀昭議長にそれぞれ現況の酪農情勢を伝え、県一の生乳生産地「庄原」の基幹産業としての酪農業の継続と発展への支援を要請した。特に導入牛価格の高騰や安定した休日確保のための酪農ヘルパー事業への充実強化を求め、生乳生産基盤の衰退から後継牛確保対策(現行導入牛(三・五万円)・自家育成(二万円/頭)と酪農ヘルパー事業(利用料の一/十五)への助成を現行よりも手厚い支援を要請した。主要要請項目は、①配合飼料利用支援事業、②乳用牛増頭推進事業、③乳用牛ヘルパー利用促進事業、④乳用牛群検定事業、⑤アカバネ病予防対策事業、⑥乳用牛防疫対策事業、⑦畜産防疫対策事業、⑧家畜飼養施設増改築支援事業、⑨受精卵導入事業など。市長並びに議長からは第一次産業である畜産振興への関心は高いが、「市政運営にかかる財政も厳しい中ではあるが、しっかりと検討対応はしたい」との言葉があった。

賀茂地域酪農団体連絡協議会

十一月十四日 (有)トムミルクファーム



育成牛の飼養管理などを学ぶ  
第二十四回賀茂地域畜産研修交流会

賀茂地域酪農団体連絡協議会(会長 檜垣義雄)は、第二十四回賀茂地域畜産研修交流会を開催し、会員・家族二十名のほか、関係機関十七名の参加があった。

開会で檜垣会長は、多くの出席者への感謝と、広島県畜産共進会への出品者に対して御礼の言葉が伝えられ、来賓の岩竹重城組合長(広酪)からは、七月以降の出荷乳量の減少や平成三十年四月一日の畜安法改正に伴う今後の生乳販売事業等に触れて酪農情勢を交えて挨拶した。

その後の研修会では、NOSA I 広島東広島家畜診療所の向井先生による「育成牛の飼養管理」、社会保険労務士法人たんぼぼ会 瀬川徳子社会保険労務士による「農業者のための特別加入制度」の講義を受けた。

研修会後は、上川俊夫理事(広酪)の乾杯発声から交流会に移り、会員・関係機関の垣根を越えて、終始和やかに交流を深めた。

賀茂地域酪農団体連絡協議会

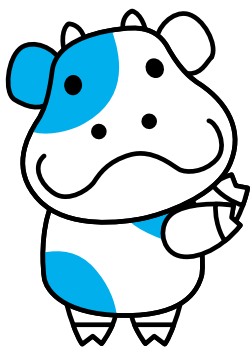
十月二十日 NOSA I 広島 東広島家畜診療所

県共・交流会運営  
役員会で協議決定

賀茂地域酪農団体連絡協議会(会長 檜垣義雄)は、第三回役員会を開催し、第九十三回広島県畜産共進会や第二十四回賀茂地域畜産研修交流会について協議を行った。

「第九十三回広島県畜産共進会」には、(有)山延牧場、(有)トムミルクファームから各一頭、広島県立西条農業高等学校から二頭を出品し、家畜運搬や出品者の応援等を広く会員に呼びかけることを決定した。

「第二十四回賀茂地域畜産研修交流会」は、当日の運営スケジュール等を決定した。



## 西部地域の発展を模索・意見交換



(西部地域のより良い環境を目指したいと挨拶する吉川春三理事(中))

平成三十年一月末日をもって廃止を決定した西部事業所の在り方について、先に開催した西部地域の地区懇談会では、「管内組合員に対して西部事業所の在り方についてのアプローチをとって改めて検討したい」との意見がまとめられたことから、北

広島町酪農団体連絡協議会(会長 西原嘉一)が行ったアンケート結果をもって、意見交換を行った。出席組合員は広酪役員を除いて九名。同協議会からは、アンケートは同会員二十名を対象に十一名の回答があったと報告を受け、現有建物に対しては、①撤去八名、②花見等の開墾地を確保するため建物を修繕して利用一名、③その他二名であった。「抛り所」を含めた今後の提案については、①新たにプレハブ設置が五名、②更地売却が三名、現有建物の修繕利用が一名、その他二名であった。

業所をそのまま存続してほしいとの意見もあったが、現有建物は老朽化が著しく、施設安全面での問題も大きいことから、「撤去やむなし」との判断となった。今後の西部事業所での会合や女性部活動の抛り所は、概算見積額を見て、プレハブ住宅を設置するにあたっては、将来コストを要することから、近隣の会議室等を借りる等して抛り所を確保する方向性がまとめられた。

今回の意見交換会では、「同地域の組合員が減少傾向にある中で、将来コストを賄えるだけの経費負担は難しい。投資においても他地域からの同意も得られ難い」。また、広酪の被合併組合であった北部酪農協が持ち込んだ高宮ミルクボーイの乳業工場を例に挙げて、合併後、その負担経費を組合全体で負担してきた経緯から、「これから建屋を新設すれば、その維持費用や何れ解体する場合には、新規就農者を含め、頑張っておられる若い方が負担することとなる。将来を見据えた理事会判断がなされていることを考慮されたい」等の意見があった。

当組合からは、同地区懇談会で施設解体撤去費用と「抛り所」としてプレハブ建屋の設置費用に掛かる概算費用を示して、意見を求めたところ、事



## 三原・世羅「合同視察研修会」 大型牧場「希望園」視察

三原市酪農振興会(会長 新舎和久)と世羅郡酪農振興協議会(会長 内海利彦)は、合同視察研修会を開催し、企業として酪農経営を展開されている希望園(岡山県笠岡市)を視察した。

同牧場の概要は、従業員三十人、搾乳牛は約千頭。デラバルの搾乳機器を使用され、旧牛舎はフリーバーンで三十六頭搾乳のロータリーパーラーで三百八十頭を搾乳。十一月二十日に完成した新牛舎ではフリーストール、七十二頭搾乳のロータリーパーラーで五百頭を三回搾乳。平均乳量は三十五kg、五百頭の搾乳時間は三時間半。初産が

多く、新牛舎は稼働してから僅か二日目といった規模拡大の真ただ中での視察に感謝し、大変勉強になったとの感想があった。

